

ゼロトラストにおける 企業セキュリティの在り方に関する研究 —企業が求めるゼロトラストの理想像とは—

アブストラクト

1. はじめに

昨今、急速に変化する社会や環境への対応や高度なサイバー攻撃への対応のため、企業における IT サービスの多様化が求められる。その中で、社内ネットワークは安全という考えに基づいた境界型セキュリティ対策だけでは対応が不十分とされ、社内外問わず全てのネットワークを信用しないという考えに基づいた「ゼロトラストセキュリティ」に注目が集まってきている。

2. 企業が求めるゼロトラスト像とは

ゼロトラストセキュリティモデルを導入するにあたり、現状の企業のネットワークにおける問題点を洗い出したところ、企業が求めるゼロトラスト像が定まっておらず、また、構成要素が多いため導入が難しいことが判明した。そこで、企業が求めるゼロトラストモデルの理想像を確立しつつ、その構成要素の導入優先順序を明らかにすることで、企業のゼロトラスト導入推進の材料とすることを目的とした。

3. ゼロトラスト像の理想像

ゼロトラストモデルの理想像を確立するために、ゼロトラストを構成する要素である「デバイス」「ネットワーク」「アイデンティティ」「クラウド制御」「運用要素」について調査した。また、それらを導入するにあたり、以下2つの観点で導入する際の優先順位を仮説として立てた。

- (1) 働き方改革の推進に向けたユーザーの利便性を重要視したケース
- (2) 多様化するサイバー攻撃に対するセキュリティ対策を重要視したケース

4. 検証のアプローチ

設定した仮説を、以下の流れで調査研究を行った。

- (1) 参加メンバーの各企業にアンケート形式でヒアリングを行い、各企業が求めるゼロトラストモデル導入の目的と需要・それらに対する課題を明らかにする。
- (2) 本研究で立てた仮説と検証結果との比較を行い、企業が求めるゼロトラスト導入のための優先順位を明確にする。

5. 検証結果の評価

2つの観点において、いずれの優先順位も①アイデンティティ、②デバイスという結果となった。それぞれの仮説とは異なる結果となったが、それは各企業で既に導入されているセキュリティ対策とあるべき姿とのギャップから生じているもので、企業ごとの異なる課題に応じたソリューションを取り入れながら、ゼロトラストモデルの理想像に徐々にシフトしていくことが最も現実的な選択肢になることを提言できた。また、企業間で導入優先順位が異なることから、企業ごとに求められていることや認識できていない課題があることを提言できた。

6. おわりに

各企業での導入優先順位が異なることから、仮説における導入優先順位の妥当性はあくまで一例に過ぎないということが分かった。一方で、この仮説をもとに企業ごとに検討をすることにより、それぞれの企業がゼロトラストモデルを導入する材料となることから、企業のゼロトラスト推進へ貢献できるものと考えられる。